



Title	出版物 国際学術雑誌『平和と核軍縮』 Journal for Peace and Nuclear Disarmament
Author(s)	
Citation	長崎大学核兵器廃絶研究センター年報, 2017, pp.23-25; 2018
Issue Date	2018-04-30
URL	http://hdl.handle.net/10069/38396
Right	

This document is downloaded at: 2019-04-23T20:45:27Z

<出版物>

長崎大学編集、Taylor & Francis 出版

国際学術雑誌『平和と核軍縮』

Journal for Peace and Nuclear Disarmament

このたび、長崎大学では、英文の国際学術ジャーナル “Journal for Peace and Nuclear Disarmament” を創刊する運びとなりました。本学の核兵器廃絶研究センター (RECNA) が編集を担当し、年間2回発行の予定です。

本ジャーナルの略称は、「J-PAND」です。出版は、学術ジャーナル刊行では世界的な権威を有する英国のテイラー&フランシス社 (Taylor & Francis) です。同社刊行の核軍縮・不拡散分野のジャーナルとしてはアジア初のものであります。

掲載論文等はすべて、テイラー&フランシス社のウェブサイトにてオープンアクセスで提供されます。すなわち、どなたにも無料で読んでいただけ、PDF でダウンロードすることも可能です。核廃絶という大きな目標に向けて、取り組むべき課題は山積しています。そのひとつひとつをより多くの方々に考えていただくために、知的貢献をしていきたいとの思いをこめて、オープンアクセス方式を採用しました。本日をもって本ジャーナルのウェブサイトがスタートし、論文掲載も始まりました。論文投稿の募集も同時に始めました。

長崎原爆の惨禍に見舞われた経験を持つ本学からこのような学術的国際発信ができることは、大変喜ばしいことです。核兵器禁止条約が採択され、核兵器をめぐる国際情勢が大きく動く中、世界の多くの研究者、とくに、日本を含めたアジア太平洋地域や若手の研究者にこうした発表の機会を提供することで、本ジャーナルは核兵器廃絶に向けた新たな力になりうるものと考えております。

読者の皆様にジャーナルの成果を活用していただくとともに、研究者からの積極的な論文投稿をお待ちしております。

2017年12月6日

国立大学法人長崎大学長

河野 茂

最新論文情報

- 2018年3月28日 『平和と核軍縮』誌と長崎大学（片峰茂・長崎大学前学長）[日本語要旨(PDF)] [日本語全訳(PDF)]
- 2018年3月27日 赤十字国際委員会（ICRC）と赤十字・赤新月運動：1945年以降の非核世界を目指す活動について（リン・シュレーダー）
- 2018年3月13日 国境を超える市民社会はいかにして核兵器禁止条約を実現したか：ベアトリス・フィン氏へのインタビュー（目加田説子）
- 2018年2月22日 インドと核兵器の先制不使用政策（クマール・サンダラム、M・V・ラマナ）
- 2018年2月20日 核軍縮と核兵器禁止条約：中満泉・国連軍縮担当上級代表へのインタビュー（吉田文彦）
- 2018年1月22日 イラン核合意を基礎に国際の安全と平和へ（サイド・ホセイン・モサビアン、モハマト・メフディ・モサビアン）
- 2018年1月3日 核兵器に悪の烙印を押し、非正統化する（黒澤満）
- 2017年12月19日 北東アジアの平和と安全保障に関するパネル（PSNA）2017年報告（鈴木達治郎）
- 2017年12月18日 創刊号へのメッセージ（河野茂・長崎大学学長）[日本語(PDF)]
- 2017年12月13日 核軍縮に向けた戦略的計画：完璧なる政治的嵐をつくり出す（ランディ・ライデル）
- 2017年12月05日 日本と核兵器禁止条約：歴史、地理、合法性、道徳性、人道性からみた誤った選択（ラメシュ・タクール）
- 2017年12月05日 創刊号へのメッセージ（田上富久・長崎市長）[日本語(PDF)]

編集体制

編集長 吉田文彦（長崎大学、RECNA 副センター長）

編集長補佐 山口 響（長崎大学）

副編集長 鈴木達治郎（長崎大学、RECNA センター長）
広瀬 訓（長崎大学、RECNA 副センター長）
中村桂子（長崎大学、RECNA 准教授）

編集委員

藤原帰一（東京大学）
西崎文子（東京大学）
目加田説子（中央大学）
ピーター・ヘイズ（シドニー大学、豪州）
M・V・ラマナ（ブリティッシュ・コロンビア大学、カナダ）
ジャック・ハイマンズ（南カリフォルニア大学、米国）
ランディ・ライデル（元国連高官、米国）
レベッカ・ジョンソン（アクロニム研究所、英国）
イム・マンスン（韓国高等科学技術院 [KAIST]）
趙通 [シウ・ツウ]（カーネギー国際平和財団 [北京]）

アドバイザー

ジャヤンタ・ダナパラ（元国連事務次官、スリランカ）
セルジオ・ドゥアルテ（パグウォッシュ会議、ブラジル）
フランク・フォンヒッペル（プリンストン大学、米国）
ジア・ミアン（プリンストン大学、英国）
ジョージ・パーコビッチ（カーネギー国際平和財団、米国）
アリソン・マクファーレン（ジョージ・ワシントン大学、米国）
ゲーツ・ノイネック（ドイツ科学者連盟）
アレクセイ・アルバトフ（世界経済国際関係研究所、ロシア）
ケビン・クレメンツ（オタゴ大学、ニュージーランド）
ジャルガルサイハン・エンクサイハン（元国連大使、モンゴル）
沈丁立 [シェン・ディングリ]（復旦大学、中国）
文正仁 [ムン・ジョンイン]（延世大学、韓国）
黒澤 満（大阪女学院大学）